続 英会話革命

平野清 著

こうすればすぐできる

こうしないとできない

Revolution!!

大修館書店

[著者略歴]

平野　清　(ひらの　きよし)

1945年大阪府生まれ。1970年大阪市立大学英米語英米文学科卒業。1975年ミシガン州立大学コミュニケーション学部大学院博士課程中退。修士課程修了 MA (専攻：異文化間コミュニケーション)。
現在，ヒューコム・インター英会話学院〔大阪本部校 (06) 359-2848，新宿校 (03) 5379-0242〕学院長，生きがい英語塾塾長。前大阪YMCA英会話学校講師，通訳者，翻訳家，大阪学院大学講師，アサヒカルチャーセンター講師。
著書『英会話革命』(大修館書店)『実用生成英文法』(開文社出版)他。

続 英会話革命——こうすればすぐできる
こうしないとできない

©Kiyoshi Hirano 1997

初版発行————1997年10月10日

著者————平野　清
発行者————鈴木荘夫
発行所————株式会社大修館書店
〒101 東京都千代田区神田錦町3-24
電話03-3295-6231(販売部) 03-3294-2357(編集部)
振替00190-7-40504

装丁者————内藤創造
印刷所————三松堂印刷
製本所————関山製本社

ISBN4-469-24413-9　　Printed in Japan

Ⓡ本書の全部または一部を無断で複写複製(コピー)することは，著作権法上での例外を除き禁じられています。

会計革命

Revolution!!

平野清 著

こうすればすぐできる　こうしないとできない

江苏工业学院图书馆
藏书章

はじめに

しばらく前に，私達が京都教室で，初心者用の英会話の「無料体験セミナーレッスン」というものを開いた時のことです。新しくお集まり頂いた少数の人達の中に60才くらいの男性がいらっしゃいました。

その前半で私は，まず，英会話とは「即座の（つまり前もって準備のできない）非公式の相互意思伝達（活動）」であり，これを一気に正しくし続けることなど不可能であり，必ず意思伝達上の問題が生じるから，対処が重要である旨の話をしました。次に，その対処に最も有効であると思われるわずか５つの初心者用表現を解説し，発音練習をしました。そして最後に，後半の英会話のレッスンの進め方を解説し，休憩に入ったのです。

するとその時，先ほどの男性が私に話しかけ，流暢な英語で自己紹介なさいました。それで，その方がＴさんとおっしゃり，終戦後すぐ，アメリカの進駐軍の兵士達と接してから英会話に強い興味を持つようになり，延々50年近く様々な方法で英会話を学習し続けてこられたこと。また，現在までのＮＨＫの英（語）会話講座のテキストはすべて暗記したという驚くべき努力家であられることがわかりました。

しかし，後半の英会話のレッスンの時，次のような驚くべきことが起こったのです。このＴさんが私のすぐ右横に座っておられたこともあって，私はまっ先に彼に話しかけました。以下はその言葉のやりとりです。

Hirano : T-san, what do we need to make a kennel?

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.

T-san : Kénū?

Hirano : Yes, kénnel.

T-san : Kénō? Kenū??

と言って絶句なさったのです。

そこで私はその向こう隣りに座っておられるＦさんに同じ問いをしてみました。

Hirano : F-san, what do we need to make a kennel?

F-san : Sorry, I don't understand. Please write it down.

Hirano : Sure（と言って同英文を板書）.

F-san : "Need" and "k-e-n-n-e-l", I don't understand.

Hirano : All right, I'll explain. Listen carefully. We live now. We need air. We need water. We need food. We need clothes. We need money(などとジェスチャーを交えて言う).

F-san : Mr. Hirano, I understand. Thank you.

Hirano : Very Good. And a "kennel" is a "dog's house".

F-san : I see, thank you. Then, we need this, and this, and this, and this.

と言って，テーブルの天板を持って示したり，かなづちで釘を打ったり，のこぎりを使う手まねをしてそれぞれを示されたので，私はその都度，"Ah, you mean, a 'board of wood'." とか，"And a hammer." のように言って，その単語を言ってあげました。

その後，この会話は「もしかなづちがなかったらどうするか」等の質問をして，困った時に発想を変え，対処して問題を解決することの重要性へ話を進めて行ったのです。

ところで，このＦさんは英語や英会話が苦手で，私達の教室で "This is a pen." から始め，週１回の英語と英会話のレッスンをわずか４ヶ月ほど受けられただけの御婦人です。

このことに関し，Ｔさんは，「自分は，犬小屋〔"kennel" の発音〕は "ケンネル" だと思っていました。私達はその単語を『犬

寝るところは「ケンネル〔犬寝る〕」なり』とか『犬寝るケンネル』とか言って覚えさせられたのですよ」と言い訳されました。しかし，御自身の完敗を認め，「この教授法はまさに革命だ」ともおっしゃって下さったのです。Tさんは時間の都合上，私達のレッスンには参加できないので，私の本を読んで勉強し直すとのことです。

その英会話教授や学習を真に革命とする，外国人に話しかけてから別れるまでの，英語の言葉のやりとりの方法［how］とその理由［why］を詳しく解説するのが，本『続 英会話革命』です。先の『英会話革命』〔前編〕が入門編としたら，本続編はその初級編ということになります。

今回も前回同様，英語や英会話法，それに欧米文化に関してMatthew Smith君とその友人達に多数の貴重な助言を頂きました。また，本書の出版に関しては，大修館書店の鵜沢敏明取締役編集部長，校正では同社編集第2部の須藤彰也さんに再びお世話になりました。心から感謝の意を表したいと思います。

平成9年8月

平野　清

目　　次

はじめに　3
目　　次　6

各　　論（前編からの続き）　11

第８章　ヒューコム・アプローチの極意と英会話革命　12
１．前編の概要　12
２．英会話上達の極意　13
３．英会話革命　14
４．英会話 最後の挑戦　16
１）コミュニカティブ・アプローチ：これで駄目ならあきらめなさい　16
２）問題１：自然な英語だけを覚える　18
３）問題２：ことばを超えて相手の意図を推測する力を養う　22
４）対等の立場と発話の自由　25
５）自然な英語とコミュニケーションとしての機能　29
６）最後の挑戦はヒューコム・アプローチで　32
コラム：人間の原点に戻り国際人になろう　34

第9章　外国人との即座の正しい相互意思伝達法　37
1．英会話に必要な即座の正しい相互意思伝達　37
1）私達の学校の，即座の正しい相互意思伝達を中心とする英会話教授法　37
2）会話における正しい意思伝達に必要なこと　38
3）やり方によっては不可能になる正しい意思伝達　40
2．聞き取りと理解　41
1）ナチュラル・スピードの英語の聞き取りはむずかしい　41
2）自然な速さの（発話の）音声を正しくとらえることの困難な原因　43
3）相手の発話の意味内容を正しく理解することの困難な原因　44
4）解決法は対処の徹底しかない！　47
5）勝手な思い込みによる聞き取り上の問題　48
6）聞き取り失敗時の具体的対処法　53
7）書いてもらうことが一番良い理由　57
8）文化的良識の違いから起こる問題　60
9）速く正しい伝達　62
10）辞書は最後の手段　65
11）聞き取りの失敗から起こる問題の責任について　70
3．正しい事実認識と思考　74
1）正しい意思伝達に必要な「正しい事実認識」　74
2）英会話における正しい事実認識と，おざなりな事実認識の例1　76
3）正しい事実（関係の）認識や思考がむずかしい理由　79
4）おざなりな事実認識の例2　80
5）おざなりな事実認識と思考の例3　83

6）広義の事実（関係の）認識はやさしい 86
7）広義の事実（関係の）認識が，（即座の）相互意思伝達上のあらゆる問題を解決する！ 92
4．会話における表現と発話 96
会話における表現と発話 96
5．初心者にとっての英会話 99
1）初心者に必要な「英会話」のとらえ方とその実践法 99
2）ただで学べる生きた英会話表現 I 102
3）ただで学べる生きた英会話表現 II 106
4）ただで学べる生きた英会話表現 III 110
5）特に要注意，相手の "What do you mean?" という発話 113
6）会話に必要で重要な対人関係における感受性の豊かさ 117
7）対人関係における感受性の豊かさを失わせる従来の教授法や学習法 121
6．英会話における初心者用表現(伝達)法 125
1）英会話における私達の表現活動 125
2）とてもミスリーディングな『巨泉の使えない英語』 127
3）英会話初心者用表現伝達法 I じかに物を(指し)示し伝える 130
4）英会話初心者用表現伝達法 II 絵や図や記号で伝える 135
5）英会話初心者用表現伝達法 III 身振り手まねや動作で伝える 153
6）英会話初心者用表現伝達法 IV 例を挙げて伝える 158
7）英会話初心者用表現伝達法 V 相手に同様な質問をしてから 164
8）英会話初心者用表現伝達法 VI 日本語で言って書いてから 176

9）伝えたい内容が複雑な文になる場合　182
10）英会話初心者用表現伝達法 Ⅶ　やさしい英語で簡単に　192
7．ユーモアやウイットについて　199
1）ユーモア，ウイット〔機知〕，冗談，皮肉，負け惜しみ等　199
2）ユーモラスな行動や発話の方法　204
3）笑われた時の対処　220
4）ウイットやユーモアの発話法　221

総　論　II　227

第10章　ヒューコム・アプローチと従来の方法　228
1．目的は同じ，しかし方法は逆　229
2．様々な方法が私達に実現してくれること　230
3．従来の方法と本方法の能力の視覚化　234
1）英会話力習得状況のグラフ化　234
2）従来の方法が非力な理由　237
3）脱落か従来の方法からの脱却か　241
4）グラフ〈T〉とグラフ〈HE〉について　242
5）英語力習得状況のグラフ化　243
6）ヒューコム・アプローチの英語力養成法　244
7）対照生成英文法の概略　246
8）対照生成英文法の欠点とその克服法　248
9）英語力習得状況グラフの解説　252
10）「何」や「どれ」の教授法と「なぜ」や「いかに」の教授法　254

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.

11）従来の日本の学校英語 255

エピローグ 258

各　　論

（前編からの続き）

第8章　ヒューコム・アプローチの極意と英会話革命

1．前編の概要

「皆さん，もう街で外国人に話しかけてみましたか？」

これが書物ではなく講演会なら，第1声，そう尋ねて私の話の続きを始めたいところです。

前編の総論の**第1章**で，「英会話に上達するには，実際に英会話をしては反省し，そのとき用いた英語や会話法を改良していくことが大切」だと言いました（第1章の4．の問4の解説参照)。

そして，**第2章**で，見知らぬ外国人に話しかけ，英語で会話をする簡単な方法を概説しました。

また，最後に，次の各論に読み進む前に，ぜひ街に出て見知らぬ外国人に話しかけ，英語で本物の会話をしてもらいたいとも言いました。そこで，もうその段階で勇気をふるい起こし街へ出て，生れて初めてただ1人で外国人に話しかけた人がいらっしゃるかも知れません。もしそのような人がおられたら，その勇気に敬意を表したいと思います。

しかし，多くの人は，その段階では私の話に納得できず，あるいは，1人で外国人に話しかけるにはまだとても不安なので，そのまま各論に読み進まれたことでしょう。

その各論の**第3章**では，私の提唱する方法で英(語)会話を学習すれば，生れて初めて外国人と会話をする場合であっても，どれほど早くかつ長時間，これを何とか満足にできるようになるかをいくつかの実例で示しました。

第４章では，英(語)会話すなわち英語での会話が，会話英語すなわち会話用の英語(の発表)といかに異なったものであるかを，剣術の立ち合いと芝居の立ち回り〔殺陣(たて)〕にたとえて解説しました。

第５章では，英(語)会話が満足にできるようになるためには，会話用の英語力を養成する従来の方法ではなく，本書が唱えるような，英語での本物の会話力を養おうとする新しい方法で学習しなければならないことをお話しました。また，そこでは，必要な，わずか30個のやさしい英語表現を紹介しました。

さらに，実質的には前編の最後の章である**第６章**では，外国人に対する話しかけ方と別れ方について詳しく解説しました。

本続編へのつなぎの**第７章**では，英(語)会話の主要部分は「出たとこ勝負の，その場での相互意思伝達活動」であり，初心者の人達が有意義に英会話をするには，臨機応変な対応や対処しかないことを確認し，本続編を簡単に予告して前編を終えました。

２．英会話上達の極意

前編では，英語で会話をする場合の，外国人に対する話し方や別れ方については詳しく解説しましたが，その間の会話の主要部分のやり方については詳しく解説していません。

しかしながら，**第６章**の**節９．**で，満足に本物の英会話ができるようになるためには，百の英会話表現を暗記することよりも，１回でもよいから本物の英会話を経験し，それについて反省しておくことが大切だと言いました。そこで，皆さんの中には，すでに１度，あるいはそれ以上，たった１人で外国人に自分の方から話しかけた人もいらっしゃることでしょう。

このような皆さんには，その勇気をたたえるとともに，私の言ったことを信じ，行動を起こしてくださったことに対し感謝した

いと思います。同時に，私はその結果に対して少なからぬ責任を感じていますので，もしそのような皆さんがそのとき起こった問題や，そのときの様子や感想をはがき等でお知らせくださったら大変うれしく思います。

しかし，まだ外国人に英語で話しかけ，本物の会話をするのを恐れている人もたくさんいらっしゃるでしょう。

そこで，そのような人達には本ヒューコム・アプローチの奥義，すなわち英会話上達の極意をお話したいと思います。

その極意とは，しばらくの間英語を捨て，日本語で何人かの外国人に話しかけ，日本語で会話をしてみることです。それから，気楽に知っている英語の語句や文を少しずつ発言に入れていくのです。そして，外国人と会話をすることに慣れ，ほとんど上がらなくなったら，本書が提唱しているやり方で英(語)会話を実践しては学習するのです。

3．英会話革命

まず，英語を捨て，しばらくの間日本語だけで外国人と実際に会話をしてみるように提案すると，多くの人達はとても驚きます。これは，私達日本人の大多数が，外国人と会話をするときは英語あるいは相手が話す言語で話さなければならないと，勝手に思い込んでいるからです。

ここは日本です。日本にあっては，たとえ相手が外国人であっても日本語で会話をしたり話し合ったりして悪いことはまったくありません。いや，むしろその方が自然でしょう。ですから，このようにする場合，外国にいるよりも日本にいる方が有利なのです。

私が先ほどのように当分英語を捨て，日本語で外国人と会話をするように言うと，中には大きなショックを受けたり，拒否反応

を起こしたり，あきれて私のことを馬鹿にしたり，嘲笑したりする英会話の学習者もいます。そのような人達は，英(語)〔外国語〕会話において最も大切なのは会話用の英語〔外国語〕力だとか，最悪の場合は(会話用の)英語〔外国語〕力がすべてだとか，誤って思い込んでいるのです。

どうしてそのような誤った考えを当然のこととして抱くようになったのかというと，原因は今までの英(語)〔外国語〕会話の教授法や学習法にあるとしか考えられません。

すでに何度も述べたように，従来の英会話の教授法や学習法はすべて，結局ネイティブ・スピーカーに近い，いやそれ以上の完璧な(会話用の)英語力がないと有意義に会話ができないとしています。そして，会話法の教授や学習は最初から捨ててかかり，音声英語力の養成ばかりにやっきとなっています。

これに対して，私が提唱するヒューコム・アプローチの英会話教授法や学習法は，そのまったく逆の方法を取っています。つまり，どんなに不十分であっても，そのときそのときのあるがままの英語力で何とか有意義に英会話ができるように，会話力を養成しようとするものです。**前節2.**の終りで本物の英会話を恐れる人達に提案したように，それは英語を捨てても会話を捨てない方法です。そして，その効果は非常に大きいということが，私達の生徒さん達によって証明されています。

この方法と効果における180°に近い逆転は，科学の歴史に革命を引き起こしたと誰もが認める，天文学者コペルニクスにちなんで名付けられた「コペルニクス的転回」とみなせます。これが「ヒューコム・アプローチ」を英会話の教授法や学習法における「革命」と呼ぶ理由です。

このことに関して，勝手ながら私の個人的な気持ちを少し述べさせていただきます。私は自分の唱える方法を「革命」だとか，「革命的」だとか言いたくはないのです。ごく当り前の方法しか

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.